

■シリーズ 沼津兵学校とその人材 116

沼津兵学校にあったオランダ国王肖像画

■夏休みイベント報告

■利用再開のお知らせ

二〇二六年一月

史料館通信 沼津市明治

通巻164号



沼津藩士手島家の甲冑  
当館蔵

## 沼津兵学校にあったオランダ国王肖像画

まだ鎖国下の弘化元年（一八四四）、欧米諸国の中で唯一日本と通商関係を結んでいたオランダが、長崎出島において幕府に贈った品物の中に、「切子大燭台」「ピストール」「東印度草木之絵図」「地理書」「天文書」などとともに「阿蘭陀国王姿画 一」（「和蘭国王姿画 一枚」）があった（箭内健次編『通航一覽続輯』第二巻、一九六八年）。これは、国王ウィレム二世（在位一八四〇～四九）の肖像画のことだった。また、開国した安政二年（一八五五）にも国王ウィレム三世（在位一八四九～九〇）の肖像画が幕府に贈られた。



絵葉書「正面ヨリ見タル遊就館」

青木育子氏寄贈  
当館所蔵  
昭和初期

二枚の肖像画は縦二七〇×横一八〇センチという大きなものであり、江戸城に運ばれたものの、飾られることもなく、戊辰戦争下の江戸無血開城の際には、「城の櫓内に蔵しありし」（『開国大勢史』、一九一三年、早稲田大学出版部）だけだったらしい。その後は、陸軍士官学校で保管され、明治一四年（一八八一）には靖国神社の遊就館に移管された。大正期には、同館の四三室（外国兵器室）で展示されていた（『教育画報』第一四巻第一号、一九二二年）。同館の新築移転工事が行われることになった昭和五年（一九三〇）頃には、少なくともウィレム二世の肖像画だけが展示されていたらしい（水田稲葉「九段遊就館に在る和蘭皇帝ウキリアム二世の肖像油画に就て（上）」『明治文化』第六巻第二号、一九三〇年、日本評論社）。ところが残念なことに、太平洋戦争下の空襲のため、二枚とも焼失してしまったようで、現存しないとのことである（小林頼子「靖国神社遊就館旧蔵のオランダ国王肖像画」『日蘭学会通信』第五七号、一九九二年）。

ところで、右に述べたように、これまで二枚の肖像画は、江戸城↓陸軍士官学校↓遊就館といった移動をたどったとされてきた。また、「どのような経緯で士官学校の管理下に入ったのかは、よくわからない」と記す研究者もいた（木下直之「川村清雄「お供え」について」『月刊百科』第三五七号、一九九二年、平凡社）。しかし、実は江戸城と陸軍士官学校の

## 表紙解説 沼津藩士手島家の甲冑

同家は、工業教育に尽力した文部官僚で東京高等工業学校（後の東京工業大学、現東京科学大学）の創立者として知られる手島精一の家。初代の昇左衛門（定之進・庄左衛門）が安永6年（1777）に徒士として取り立てられたのが最初で、以後藩士として、岩之丞→右源太→精一と4代続いた。昇左衛門は御中小姓席・御番方、岩之丞は御供中小姓・御番方、右源太は寄合席・中原御目付、精一は御馬廻席・御番士といった身分・地位まで昇っており（鎌ヶ谷市郷土資料館蔵「藩鑑譜」）、藩内では上士に属したといえる。維新後の家禄も20石であり、最上位の等級だった。この甲冑が誰の代に作製・所蔵されたのかは不明であるが、軍事的危機が強く認識されるようになった幕末期の当主だった右源太の時であろうか。洋式軍制の導入にいち早く取り組んだ沼津藩では、あまり着用する機会はなかったかもしれない。手島家伝来の文書資料や手島精一が残した遺品の多くは宮内庁書陵部や東京工業大学に寄贈されているので、この甲冑はそれ以前に手島家の手を離れ、収集家か業者へと流れたのであろうか。手島家の家紋は「七本骨三つ扇」なので、そのものズバリではないものの、兜の吹き返しには扇子のデザインがほどこされている。（樋口雄彦）



遊就館旧蔵オランダ国王ウィレム二世肖像画写真  
東京大学史料編纂所蔵



遊就館旧蔵オランダ国王ウィレム三世肖像画写真  
東京大学史料編纂所蔵

間に、沼津兵学校を經由していることが新たに判明した。その事実が記されていたのが、以下に引用する、遊就館が開館した直後の新聞記事である。

○東京遊就館に八種々珍奇なる武器を陳列せられたるがその中に和蘭国々皇維廉二世と第三世の肖像の油絵あり是ハ彼の国王より幕府に贈られたるものにして彼国の船より揚ると直ちに我国にてハ護衛兵を附せられたるなど幕府にても尊重せられしものなるが瓦解の後ハ沼津兵学校にありしを陸軍士官学校へ伝へ同校に掲げ置かれしを今此の遊就館へ移されたるものなりとぞ此の額に就て可笑一話あり現に陸軍に在る某君の曾て和蘭国に留学せらるゝ折り彼国の人この額のことを語り出で、云ふ様ハ曩に我国より貴国將軍へ我が国皇の肖像を贈りしとき將軍ハそ

の肖像を見て何故に和蘭皇ハ斯く猛々しき顔色をなすやと問ハれしに侍臣ハ答へて其ハ鬢の生ひ茂れるが故にて候ハんと云へバ將軍ハ然らバ鬢を剃らしめよと言ハれしと聞たるが誠なりやと語りしことありしと話されたるよし兵事新聞に見えたるが当時外人の我国情を想像するのほど見るに足るべし

〔朝日新聞〕明治一五年三月一日

二枚の肖像画は、幕府瓦解の後、いったん静岡藩に引き継がれ、沼津兵学校に置かれていたのである。そして、明治五年（一八七二）の沼津兵学校の廃校、すなわち陸軍兵学校への合併・吸収によって東京に戻ったのである。

沼津兵学校の教授には、絵図方に任命された川上冬崖ら洋画の先駆者がいたほか、資業生の学科にも

「図画」があり、初歩的なデッサンや製図の技法が教えられた。しかし、本格的な油絵までが教えられるはずもなく、オランダ国王の肖像画は参考にされたり、人目に触れることもなく、沼津城内のどこかに死蔵されていたのであろう。

沼津兵学校第四期資業生出身の陸軍少将瀬名義利は、明治四三年（一九一〇）から大正一一年（一九二二）まで遊就館の第二代館長をつとめ、在職のまま亡くなった。はたして彼は、二枚のオランダ国王肖像画が、自身が若き日に学んだ沼津兵学校に保管されていたという事実を知っていただろうか。

（樋口彦彦）

## 夏休みイベント報告

### 夏休み文化財イベント 出張展示

8月3日(日)、夏休み文化財イベント「むかしの世界へタイムスリップ」が沼津市民文化センターで開催され、当館も太平洋戦争の沼津の空襲と戦後復興をテーマに出展しました。「千人針」体験では、子どもたちが「恒久平和」を願い、緊張しながらも丁寧に縫い玉を作りました。



▲展示のようす▲



▲皆さんと一緒に作成した千人針

▲千人針体験のようす

### 平和を考える戦争史跡めぐり



▲金岡護国神社(神田町)

8月3日(日)、小学生とその保護者を対象とする「平和を考える戦争史跡めぐり」を実施しました。11人の参加者を得て、学芸員の案内により御成橋の空襲痕、第三中学校付近の海軍技研址、我入道の都立沼津戦時疎開学園の建物や金岡護国神社、沢田部落移転碑を見学しました。

最後に、上記の市民文化センターで催していた出張ミニ展示を見学しました。小学4年生の男の子は、「戦争はだめだね。いいことがないね。」と話していました。

## 利用再開のお知らせ

当館は、施設の長寿命化を図る屋根等の改修工事のため、令和7年7月21日(月)から休館しておりますが、工事完了に伴い、令和8年3月1日(日)より、通常どおりの利用を再開します。



### 沼津市明治史料館通信

第164号

令和8年1月31日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL 055-923-3335

FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社

## お詫びと訂正

通巻163号に誤りがございました。  
お詫びして、下記のとおり訂正させていただきます。

該当箇所

3頁・中段・16行目

3頁・上段・写真キャプション

育英塾(誤) → 育英舎(正)

第4巻第7巻(誤) → 第4巻第7号(正)